

白鷺教育会 姫路支部だより

平成30年12月8日発行・発行人 芦田 守

『私は、どう生きるか』



白鷺教育会 姫路支部副会長 魚住 妙子



平成最後の夏は、2度の大地震、41℃超えの猛暑、11府県で発令された「特別警報」、逆走台風等々、日本はどうなっていくのだろうと危惧する日々でした。

そんな中で一冊の本、吉野源三郎著「君たちは、どう生きるか」に出会った。

池上彰氏の序文によると1937年に児童書として出版され、日中戦争・第二次世界大戦を経て、1967年に再度修正後、現在の作品になったそうです。いつの時代にもある、いじめ・暴力・差別そして大きくなれば戦争と…人間の性（さが）ゆえ起こる問題の数々。その時、自分はどうすればよいのでしょうか。答えというか模範解答は、主人公コペル君がノートに書いた「僕は、すべての人がおたがいによい友だちであるような、そんな世の中が来なければいけないと思います。人類は今までに進歩してきたのですから、きっと今にそういう世界に行きつこうと思います。そして僕は、それに役立つような人間になりたいと思います。」ということでしょう。

では、具体的に「どう生きるか」と問われたら、千差万別 人間の数だけ答えがあるでしょうし、置かれた環境・立場・年齢等々、人間の一生のうちでも答えは変わってくると思います。

そこで今、「私は、どう生きるか」と自問した時、「母のように生きる。」と答えたい。私は、母との最期に約束したことがあります。「次の世に生まれてくる時も、お母さんの子どもに産んでね。」と…。私の子どもが最後の別れにどう思うかは未知数ですが、母を手本にいつ死んでもいい生き方をしていきたいと考える今日この頃です。

チコちゃんに「ボーッと生きてんじゃねえよ！」と叱られないように。

平成30年度 現職教員等研修講座報告

「学び上手は教え上手」

「学び上手は、教え上手」という言葉があります。これは「教え」の前に自らの「学び」を問題にするべきという意味だと思われます。教えの専門家である教師は、自らの学び方が問われる事になると思うのですが、近年の学校の多忙化、職場の小規模化や年齢構成の問題等で、校内研修や日々の自己研修が十分にできない現実があるのでないでしょうか。

白鷺教育会姫路支部では、本年度も先生方が受講しやすい夏休みを中心に、「授業改善」「学級経営」「学校運営」「教職基礎」の4つの講座を開講し、自らの教師力、学校力を高めたいとお考えの先生方を支援してきました。

参加された方からは、「もやもやが晴れた」「自信とやる気が…」「自分の不勉強がわかった、初心に戻って…」「ぜひ2学期に生かしたい」「次もぜひ参加したい」などの意欲的な感想をいただいております。これからも、教育現場の現状やニーズを踏まえつつ、地域の先生方に主体的な学びの場を提供できるよう、さらに講座の内容や方法を工夫していきたいと考えています。

（研修部 進藤 正洋）



学校運営学習会

7/27、8/3、8/17

於：イーグレ姫路



テーマ 「学校運営の課題と法規」

講師 前姫路市立東光中学校長
元高砂市立竜山中学校長
姫路支部副会長 石原 義行 先生
木下 孝 先生
進藤 正洋 先生

貴重な研修機会として



4年前から受講させていただいているが、全ての会に参加することができたのは今年が初めてです。夏休み中とはいって、時間を調整することが難しい先生方も大勢いらっしゃるだろうと思うと、今年は本当にラッキーでした。経験が浅く力量不足を感じている私にとって、この学習会はとても貴重です。大先輩から伺うお話をから得ることはとても多く、また教頭を拝命してから外に出て研修できる機会も少なくなりましたので、励みになります。

石原義行先生には、管理職として先生方や子ども達にどのような心がけで接するのかということを教わりました。特に教頭は校長のビジョンをどう受け止め、どう具体的に行動していくかだと話してくださいました。印象に残っています。また昨年に引き続いだ木下孝先生には、論文の取り組み方やわきまえておかなければならない法規にまつわる事柄を、進藤正洋先生には、学校の管理と運営について具体的な対応の仕方などを解説いただきました。講話を繰り返し拝聴することにより、「ああそうだった」と初心に立ち返ることもありますし、その内容が少しづつ自分のものになっていくようにも感じます。

5時に学校を締め、毎回間に合うだろうかとドキドキしながら会場に駆けつけるのですが、講師の先生方をはじめ、会のお世話をいただく諸先輩方に、心から感謝申しあげ、また来年もお世話になりたいと思います。

山田小学校 教頭 弓岡 玉緒



学校運営学習会を受講して

学校指導課に配属になり3年目を迎えるが、教諭時代には見えていなかったり、考えすらも及ばなかったことが多いことに気づかされる毎日です。そのようなタイミングで学校運営学習会の第1回と第3回を受講することができ、また新たな発見につながる良い機会となりました。

第1回の石原義行先生の講話は、保護者との関係づくりに悩む教師が多い中、どのように保護者との信頼関係を築くか、また、管理職としての学校経営や危機管理・危機対応について、校長として勤務された学校での経験談を交えた臨場感あふれるお話をしました。第3回の進藤正洋先生の講話は、最近の教育現場で起こっている問題を基にした危機管理について考えさせられる内容でした。また、ライフステージ別に求められる教員の資質についてもお話をいただき、我が身を振り返り、身が引き締まる思いがしました。

今回、貴重な学習の機会を頂いたことに感謝しつつ、今後、指導主事として、また学校現場に戻った際にはその立場で、子供たちのために力を尽くしたいと思います。

学校指導課 指導主事 黒田 徹

教職基礎講座

テーマ 「教師力向上セミナー」

毎月2回(第2・4土曜日) 10:00~12:00

講師 白鷺教育会会員(大学教員) 等

小学校臨時講師を対象にした教師力向上支援を年間通して、月2回第2・4土曜日(10:00~12:00)に実施しています。内容は、教師に求められる人間性、教師の職務、教科指導、学校の役割と課題等、講師の講義やテーマに基づいたグループでの意見交換を行っています。

授業改善講座

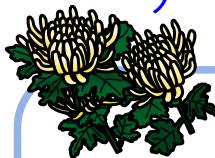
日時 8月4日（土）9:00~12:00

場所 総合教育センター

講師 兵庫教育大学教授 勝見 健史先生

テーマ 「国語科の主体的、対話的で深い学び」

— 授業づくりのポイント —



小学校国語教室入門講座に参加して



今回の白鷺教育会の研修で、多くのことを学ばせていただきました。

「国語科の主体的、対話的で深い学び」の講演会では、国語科の授業で、

教師が思考するための条件を具体的に与え、子どもたち一人一人に自分の考えをしっかりと持たせることが大切だと分かりました。そして、意見を交流していく中で、一番適した答え「最適解」を創り出す経験を学級内で重ねることで、深い思考に結びつくということを学びました。

また、意見交流を行う時には、対話だけでは不十分で、教師が教室内で子ども同士の意見をつなぐことが必要だと知りました。そのために、あえて意見と意見の「ずれ」を生かすというところが、大変興味深かったです。

分散会では、各校の取り組みや授業づくりで工夫されている点について聞くことが出来ました。国語の授業に限らず、思考力や主体性を身につけさせる上で、発問や机間指導、子どもたちから出た意見の取り上げ方など、教師の働きかけや関わり方で、深まり方が大きく変わることが分かりました。



今回の研修で、国語の授業づくりをはじめとして、普段何気なくしている言葉かけや教室内での自分自身のあり方を振り返るきっかけとなりました。子どもたちが、自分の考えをもち、話し合いを通して自分の考えが深まると実感できる授業づくりを目指して、教えていただいたことを日々の実践に生かしていきたいと思います。

曾左小学校 教諭 前原 雅代

学級経営講座

日時 8月24日（金）18:00~20:00

場所 城の西公民館

講師 前花田中学校長 三枝 俊也先生

テーマ 「直す」より「伸ばす」

— 見方・味方・魅方 —

子どもの良さを伸ばすには

今回の研修に参加して一番強く感じたことは、多面的に子どもを捉えることの重要性です。先生の「良かれと思っていたことが相手を傷つけてしまうこともある」というお話を聞いて、改めて子どもの背景や状況に思いを馳せる必要性を感じました。日々の生活で、相手は中学生だからできないことも多いと分かっていても、クラスメイトに心無い言葉をぶつけたり、同じ失敗を繰り返す生徒に対してついつい必要以上に強い口調で指導をしてしまうことがあります。自分は教師だから子どもよりも正しく物事が見えているという感覚を持たずに、あらゆる角度から子どもの気持ちを考えて声かけをしていきます。

また、「先生は生徒の犠牲のうえで大きくなる」という言葉も印象的でした。教師という仕事の特質として、ベテランも若手も授業をしクラスや部活を経営していく点が挙げられると思います。その中でベテランの先生の指導と比べて子どもたちに対して申し訳ないと思うこともあります。しかし、それも見方を変えて、子どもと共に成長していくと捉えようと思います。若手ならではの良さを生かして子どもと共に前に進んでいきます。

山陽中学校 教諭 田中 友裕



平成30年度退職者交流会（本部主催）

今年度の退職者交流会は、三木・西神方面の旅行計画。

10月25日、丘陵地の用水工事遺産、兵庫県全体をカバーする広域防災拠点、情報発信の基地を見学し、会員の交流と親睦を深める交流会でした。会員の奥田代志子先生に感想をお願いいたしました。ありがとうございました。



三木・西神の自然と文化を訪ねて



姫路支部 奥田代志子

秋晴れの10月25日、39名の人たちと退職者交流会に参加した。

バスは三木市へ、印南野の台地を潤す灌漑施設御坂サイフォン橋は、明治24年に完成し、橋の内部にサイフォン管が通っている。志染川の水面に美しい姿を映し、川原から眼鏡橋と呼ばれる風景を見上げた。明治期に総延長60kmを超える灌漑施設を、農民の力で完成させたという壮大な工事に感嘆するばかりだ。

次は、県広域防災拠点として、三木市にある広域防災センターを訪れ、自分で守る防災について映像などにより学習した。県民一人ひとりが自分たちの街は自分たちで守るという意識が大切だと話された。

神戸ワイナリーで昼食の後、私たちに情報を伝えてくれる神戸新聞製作センターへ。まず、夕刊の印刷をしているという印刷現場へ案内され、オートメ化された現場に技術の進歩を見る思いだ。その後、取材から編集及び印刷・発送までの流れを映像などで知り情報を伝える大切さを学んだ。

最後は、アサヒ飲料明石工場を見学し、原料やリサイクルなど環境にやさしい活動を推進していることが心に残った。

退職後久しぶりに会えた人たちと旧交を温めながら、生活と繋がりの深い施設を見学して学び、有意義な楽しい一日であった。



お詫び

平成30年度 新入会員を前号(32号)でお知らせしましたが、林田小学校の上山昌秀教頭先生が記載漏れになっていました。改めてお知らせいたします。

退職会員交流会 姫路支部第12回退職会員交流会を平成31年3月16日(土)

総社会館で開催予定です。会員の皆様にご案内いたしますので、たくさんのご出席をお待ちしています。退職会員の皆様と、旧交を温めながら楽しいひとときとなるよう計画しています。

姫路支部会員数 648名
(H30.9.1現在)

物故者のお知らせ(32号以降)

下村 博(平成30年9月) 山口茂一(平成30年9月)
高島孝行(平成30年9月) 合田寛子(平成30年11月)

謹んで追悼の意を表します

編集後記

9月末に上陸した台風で、咲くや否や散った金木犀が少なくなかったようです。他にも塩害により銀杏の黄葉を邪魔したとか…。暖冬の穏やかな日々をと願うばかりです。

夏に開催しました研修会と白鷺教育会本部主催の退職者交流会の様子をお届けいたします。

(広報部 青井知子・坂田紀子・藤井三津子)